

ハ一モ二一

♪ 2023/06/16 第6号

梅の雨

▼梅雨（つゆ）ですね。江戸時代は「梅の雨（うめのあめ）」と呼んでいたそうです。「梅雨（ばいう）」とも言います。梅の熟す頃というところから来ているという説があります。

▼日本語には雨を表す言葉がたくさんあります。この時期だけでも「五月雨（さつきあめ）（さみだれ）」「走り梅雨」「送り梅雨」「返り梅雨」「紫陽花の雨」「曾我の雨」「青梅雨」「薬降る雨」「短夜の雨」…

▼他の国はどうなんでしょうか。私が以前住んだことのあるインドネシアでは雨期と乾期に分かれていました。雨期と言っても日本の梅雨のように一日中雨が降るわけではありません。一日1時間、午後にざっと降ります。いわゆるスコールというものです。

地面を揺らすぐらいの雷も鳴ります。日本の雷とはスケールが違います。そんなとき外に出ている人々は建物の中に入って雨宿りをします。1時間もすれば雨は止みますので、おしゃべりしたり、お茶を飲んだりして過ごします。日本の梅雨とは違いますね。

▼気候の違いはそこに住む人々の気質や言葉にも影響があるかもしれませんね。いつも天気のことを気にして空を見上げる私たち。雨にもたくさんの名前がある日本語。でも、時には思い切り泣いて、怒って、そしてからりと元気な笑顔になるスコールのような日があってもいいかもしれませんね。

